李登輝訪日　拒否は世界の物笑い　毎日新聞-2001.04.18

クローズアップ2001

「人道」「対中」めぐり迷走

李登輝前総統ビザ問題

政府内は分裂状態

台湾の李登輝前総統が心臓検査を目的に来日を希望し査証（ビザ）発給を求めている問題で、政府の詰めの調整が17日も続き、森喜朗首相と河野洋平外相が2回会談したが、結論は先送りされた。医療目的での来日を求める李氏に対して「人道上の配慮」と「対中配慮」の両立を迫られた政府の対応は迷走し、混乱を突いて中国、台湾は発言を硬化させた。「私人」李氏へのビザ発給の是非は、台湾問題という日中関係に深く刺さったトゲをどうすべきかという問題を、改めて日本に突きつけている。

★宮邸も外務省も

「人道問題なのだから、拒む理由がない」――。16日夕、衛藤征士郎副外相は2人の政務官を連れて大臣室に乗り込み、李氏へのビザ発給決断を河野洋平外相に迫った。発給に慎重な外相は「今日はもう時間がない」と話を打ち切った。

ビザ発給をめぐって、首相官邸と外務省内では積極派、慎重派が入り乱れた。官邸では森喜朗首相と安倍晋三官房副長官が容認に動き、福田康夫官房長官が反対するという構図だ。外務省では衛藤副外相が容認論を唱え、幹部らも一時は大筋で同調した。慎重な立場を取り続ける外相に業を煮やした衛藤副外相が、発給実現に向けて省議開催を画策する騒ぎまで起きた。

李氏による申請を外務省が「ない」と否定したことも混乱を加速した。

李氏は15日の記者会見で日本政府を「うそつき」と批判、外務省は李氏側が申請書を「持参した」との表現に改めた。実際には申請書は交流協会台北事務所で預かり状態。「申請を否定したことが逆に問題をこじらせた」との内部批判が、省内からも出た。

官邸、外務省内の意見対立とそれに続く混迷。重要な政治決断でコントロール[illegible]

★ふたつの論理

政府の対応が分裂状態に陥った背景には、「人道」と「対中関係」の両立へのジレンマがある。「対中関係の根本にかかわるかが問題だが、人道問題も考慮しなければ……」。17日の参院外交防衛委員会で、河野外相の答弁は揺れた。

李氏の総統時代の訪日を[illegible]

中国外務省

政府が拒み続けたのは、ビザ発給が「台湾が中国の領土の不可分の一部であるとの中国の立場への理解と尊重」を示した1972年の日中共同声明に抵触することを恐れたためだ。台湾との関係は非政治分野に限定[illegible]

その一[illegible]局を中心[illegible]残る。李[illegible]においを[illegible]は難しい[illegible]るからだ[illegible]

「（台[illegible]がビザ[illegible]

★橋[illegible]

河野外[illegible]景として[illegible]太い対中[illegible]党橋本派[illegible]橋本[illegible]省幹部は語る。

15日、東京で行われた自民党総裁選の街頭演説で、李登輝前総統の写真を掲げ、ビザ発給を訴える人たち＝AP

拒否は世界の物笑い

中嶋嶺雄・東京外国語大学長　一学者となった李氏の入国を拒否する理由はない。李氏には政治活動をしようという意思は全くないが、日本には言論の自由があるから、講演ぐらい認めるのは当然。米国が5月4日のコーネル大の李登輝記念館開幕式典への参加を認めるのは確実だ。日本が対中配慮だけを根拠に入国を拒否すれば、国際社会の物笑いになる。

入国自体が政治活動

浅井基文・明治学院大学教授（元外務省中国課長）　査証は発給すべきではない。人道上の配慮は一般論としては大事だが、今回は口実だと思う。先の台湾総統選への影響力をみても、李氏が一民間人だというのは無理がある。台湾当局も訪日を後押ししており、入国自体が政治活動とみなされる。入国を認めれば政経分離原則が、なし崩しになる危険がある。

反対攻勢エスカレート

日本の対応厳しく非難

ビザ発給をめぐって、首相官邸と外務省内では積極派、慎重派が入り乱れた。官邸では森喜朗首相と安倍晋三官房副長官が容認に動き、福田康夫官房長官が反対するという構図だ。外務省では衛藤副外相が容認論を唱え、幹部らも一時は大筋で同調した。慎重な立場を取り続ける外相に業を煮やした衛藤副外相が、発給実現に向けて省議開催を画策する騒ぎまで起きた。

李氏による申請を外務省が「ない」と否定したことも混乱を加速した。

李氏は15日の記者会見で日本政府を「うそつき」と批判、外務省は李氏側が申請書を「持参した」との表現に改めた。実際には申請書は交流協会台北事務所で預かり状態。「申請を否定したことが逆に問題をこじらせた」との内部批判が、省内からも出た。

官邸、外務省内の意見対立とそれに続く混迷。重要な政治決断でコントロール[illegible]

★ふたつの論理

政府の対応が分裂状態に陥った背景には、「人道」と「対中関係」の両立へのジレンマがある。「対中関係の根本にかかわるかが問題だが、人道問題も考慮しなければ……」。17日の参院外交防衛委員会で、河野外相の答弁は揺れた。

李氏の総統時代の訪日を[illegible]

中国外務省

中国外務省は17日、午前に北京で、午後は東京で日本人記者を集めた緊急のブリーフィング、記者会見を開き、台湾の李登輝前総統訪日に「絶対反対」の立場を改めて強調した。

「歴史と台湾は中日関係の基礎だ。この二つが一度[illegible]

「日本政府の肝っ玉はネズミより小さい」「日本は（中国に）半世紀もいじめられながら、まだ主権が持てない」「日本の大手紙は[illegible]

午後、都内で会見した陳健・駐日大使も「急きょ、訪米を取りやめ、訪日を望んだ理由は、（総裁選で混乱する）日本の政局を利用しようというもくろみがあってのこと。火事場泥棒的な意図は火を見るより明らかだ」と厳しく警告した。

教科書問題で大使を一時帰国させた韓国と異なり、中国は対抗措置を取らなかった。外務省担当者は「中日関係の大局を考え、自制[illegible]

任後も、訪日には慎重な姿勢を取ってきた。10月にフォーラム出席のため訪日[illegible]

問題が浮上した時も「日本の外務省も困るだろう。[illegible]

[illegible]

[illegible]